

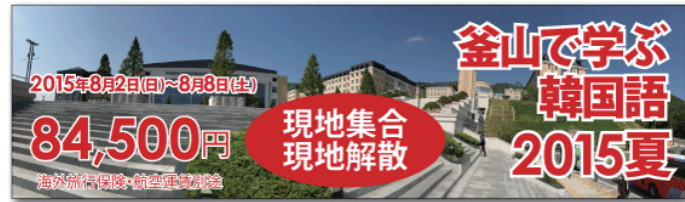
釜山で学ぶ韓国語2015夏

2015年の夏は釜山で韓国語と韓国に触れましょう！月曜日から金曜日の5日間、一日4時間の韓国語レッスン。授業はすべて韓国語。日本で勉強した韓国語の実践と練習に最適です。学生との交流もあります。そして午後は自由時間！観光もバッチリです。

YMCA 韓国語講座担当者も同行します。

期間：2015年8月2日(日)～8月8日(土) 6泊7日

**費用：84,500円(航空券別途)
定員：15名(2クラス×7名または8名)**



YMCA韓国語講座 夏の特別プログラム

申込締切：

2015年6月30日(火)
必着で「韓国短期研修プログラム申込書」を当講座宛に郵便でお送りください。



2015年5月までのその他の活動

日本語学校卒業旅行



3月20日(金)に日本語学校の卒業旅行に出かけました。一泊組は、鬼怒川温泉で楽しい夜を過ごし、翌朝、日光で日帰り組と合流、みんなで日光江戸村を見学しました。皆、江戸の街並みや文化を大いに満喫したようです。

韓国語講座「大打ち上げ」



2015年3月18日(水)に韓国語講座の受講生と講師、スタッフ合同の「大打ち上げ」がありました。韓国語講座の受講生総数が180名と多いため、これまでクラス規模で打ち上げはありましたが、今回初めて講座全体での打ち上げを企画しました。

ビンゴ大会やスタッフによる韓国伝統楽器演奏、婚礼衣装の試着、春からの使用予定教科書の陳列、学習

相談など、お酒と食事も適度に織り交ぜながら楽しい時間となりました。

代々木で日韓国際交流会



5月4日(月)、韓国人留学生と一緒に代々木公園で開催された「シンコ・デ・マヨ・フェスティバル」に参加しました。ブラジル、キューバ、チリなどのダンスや音楽、フードといったラテン文化が楽しめるフェスティバルです。タコスやチキンなどを食べたり、パフォーマンスを見たりとラテン文化を肌で感じてきました。

次に明治神宮を訪れました。本殿で結婚式を挙げる和装のカップルを見かけたりして、大いに盛り上がりました。

ゴールデンウィーク真っ只中ということもあり、前回の日韓交流会に比べて参加者は少なかったのですが、皆すぐに打ち解け、交流会後の時間もカフェでゆったりとおしゃべりを楽しみました。ラテン文化、日本文化、韓国文化に触れることのできた貴重な日韓交流会となりました。

(福島由衣 日韓交流会リーダー)

今後の予定 2015年6月～8月

【在日本韓国YMCA】

6/23(火) 第1回理事会

【東京韓国YMCA】

- 6/19(金)～23(火) インドネシアからの日本語研修受入
- 7/6(月) 第240回教界指導者朝餐祈祷会
- 7/13(月)～8/1(土) 日本語学校 夏の東京体験
- 7/14(火) 第2回理事会
- 8/2(日)～8/8(土) 釜山で学ぶ韓国語
- 8/3(月)～8/4(火) 子ども多文化探検隊(仮)
- 9/1(火) 関東大震災第92周年記念追悼合同早天礼拝

【関西韓国YMCA】

- 6/14(日) 生野地区教会一致祈祷会
- 7/2(木) 創立記念日
- 7/10(金) 第120回教界指導者早天祈祷会
- 7/18(土) 2015年度第2回理事会
- 7/25(土)～26(日) 第35回枚方サマースクール
- 7/31(金) 生野つながりデイキャンプ

YMCA東京日本語学校 学生募集中
韓国語講座 途中入会大歓迎

【編集後記】

- 最近の日差しでメガネの形に日焼けしました。夏はコンタクトですかね。(才)
- 梅雨入り前から夏のような天気が続いていますが、本番の夏は猛暑でしょうか。(た)
- ジムに通い始めました。結果にコミットしません。(白)
- 既に暑さにやられ始めています。(春)
- ゴールデンウィークに部屋の片付けに手をつけたら、收拾がつかなくてモノが床に散乱している。「断捨離」継続あるのみ！(と)

KAKEHASHI かけはし 2015 June vol.19
 発行人：金秀男 発行：在日本韓国YMCAアジア青少年センター
 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-5
 TEL: 03-3233-0611 FAX: 03-3233-0633
 http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/ ayc@ymcajapan.org

『かけはし』次号は**2015年9月**発行予定です。
Twitter: @zainichiymca Facebook: Korean YMCA in Japan
より良い紙面づくりのために、ご意見・ご感想等お寄せください。

YMCA 在日本韓国YMCA
アジア青少年センター
Korean YMCA in Japan
Asia Youth Center

かけはし

「変化の担い手」となるために

堀 真悟 (早稲田大学大学院 / 2011年度パレスチナ・オリーブ収穫プログラム参加者)

5月23日(土)、在日本韓国YMCAと東京センテニアルYサービスクラブの共催で「第7回オリーブ平和映画祭」が行われました。2008年から行われているこの映画祭では在日本韓国YMCAと東エルサレムYMCAとの交流関係を踏まえ、イスラエル・パレスチナ問題への理解を広げるべく、映画上映やゲストのトーク、オリーブの工芸品などの販売を行っています。収益は、すべて現地YMCAの支援に用いられます。

今年の上映作品は、まだ日本では一般未公開の『オマール、最後の選択』(ハニ・アブ・アサド監督、2013年)。全編がパレスチナ資本によって撮られた同作品では、イスラエルへの抵抗を試みるパレスチナの若者たちの恋や友情、絶望が、切々と描き出されています。

またゲストは、パレスチナを題材に作品を発表しているフォト・ジャーナリストの高橋美香さん。主演俳優アダム・マクワリと友人だという高橋さんは、写真でパレスチナ社会の現状を紹介しつつ、この映画の核心は「壁」と「分断」にあると述べました。

まず壁とは、イスラエルがパレスチナの地に建設している巨大な分離壁のことです。劇中にもたびたび登場するこの壁について、イスラエルは、パレスチナからの「テロ」に対する治安のためだとうたっています。ですが、実態は全く異なります。それはパレスチナ人の移動の自由を奪い、インフラを破壊するための攻撃の道具として機能しています。そして、パレスチナ人が少しでも異議を唱え

れば、警察や軍隊の法外な取り締まりを受けることになるのです。また、壁はパレスチナ人の暮らしを単に物理的に制限するだけではありません。それは、パレスチナ人の社会関係が分断されていることの象徴でもあります。劇中、友人たちとイスラエル兵の殺害に関わり逮捕されたオマールは、釈放の条件として、犯人を見つけるための密偵とされます。オマールはこれをあえて引き受けイスラエルへの反撃の機会にしようとするのですが、友人や恋人はそうは見てくれない。「彼はイスラエルへの協力者なのではないか?」という疑心暗鬼に陥っていきます。高橋さんによれば、こうしたことは実際に起こっています。そして、日々を生きる足場となるべきコミュニティが内側から崩されていっているのです。【2面へ続く】



映画『オマール、最後の選択』より

聖書に聴く

第19回 金迅野 牧師(キム・シンヤ/在日大韓基督教会 横須賀教会)

使徒言行録2:1-4

五旬節とは、ユダヤ人たちが収穫を感謝する日でした。大麦の初穂を献げる日から50日目にあたる祭り(レビ記23:16)で、ペンテコステとはギリシャ語で「第五十」という意味です。この日、教会の誕生と言われる事件に「一同」が遭遇することになります。聖書が語っているように、彼らは「一つになって集まって」いたといいますが、「一つになって」とはどのような意味でしょうか。

「集う」ことは人間の本性とも言えます。どのような人間もたった一人では生きていけません。しかし、「一つになって」という人間の集まり方にもいろいろなものがあることをわたしたちは知っています。たとえばバベルの塔を作った人々も一つの目標に向かって「一つになって」塔の建設に邁進したはずですが、その背後には「有名になろう」という「一つ」になった欲望が横たわっていました。「天まで届く」という力の誇示を誇るような傲慢さがありました。神様はその心のありようをくじきました。バベルの塔の物語は、「一つの言葉」「一つの民」であること、「一つになること」の危険を神さまが警告された物語として読むことができます。

聖書は「一つになった」人々が「異なる言葉」(ほかの国々の言葉)を話し出したと語っています。「一つ」でありながら多様な在り方が表現されていることを聖書は生き生きと記録しています。炎のような舌(tongue=言語)として顕れた「聖霊が語らせるま

ま」に自分の言語能力を超えたところで一人ひとりが多様性を表現したということがわかります。そしてその「声」はただ表現されただけではなく、共感をもってさまざまな背景を持つ人々の心に届きました。そのように「声」が整えられて人々の心に届くこと。それが、この日、「一つになって集まっていた」人々に及んだ力です。それは「大麦の刈り入れ」ではなく、主による「霊的な刈り入れ」と言えるかもしれません。

「一つ」になるために南と北が「共感」しあうことなく、互いを「敵」とみなし血で血を洗う凄惨な戦争を経験しなければならなかったことを私たちは知っています。あるいはこの地には他者を排除するために「一つになって」集まる人々があります。多様性を受け入れない、そのような「一つになる」在り方が主の御旨にそぐわないことは明らかです。ですから、わたしたちは、傲慢な「われわれ」として「一つ」になるのではなく、また、誰かを排除し傷つけてしまうような「われわれ」として「一つ」になるのではなく、主に「刈り取られた」一粒の麦として、聖霊の力を借りながら愛を語りあう日々のささやかな交わりを通して、他者にむかいあう「声」を、いま、ここから、紡ぎ始めたいと思います。そのことが、人間の根深い欲望や差別を根っこから溶かし、より大きな和解や平和につながることを信じつつ、十字架の主、復活の主のなかであって、「一つ」の共同体として歩んでいける、わたしたちでありますように。

【1面から続く】

今回痛感したのは、これがパレスチナの日常だということです。日本ではパレスチナのことは、大規模な軍事攻撃が起こってようやくニュースになります。ですが、壁と分断はパレスチナの人びとの自由と尊厳を絶えず奪い続けています。日本では想像しづらい例外的な事態がパレスチナの日常だということに、あらためて目を向けねばなりません。

そのうえで、強調したいこともあります。パレスチナと自分自身の日常をいかに架橋するのか、ということです。『オマール、最後の選択』を見る時、私たちはとすると、その手がかりを主人公オマールとヒロインのナディアの「愛」に求めてしまいがちなのではないのでしょうか。確かに劇中の悲恋には、多くの人が共感しやすいかもしれません。しかし、愛や共感など一見普遍性のある言葉で問題を捉えることで、逆に何とかが見えなくなってしまうことはないのでしょうか。

これ以上詳述はできませんが、私はパレスチナと自らの間に、共感だけでなく責任の関係をもつことをつねに考えたいと思います。単なる感傷に満足せず、日本とイスラエル・パレスチナがど

んな政治・経済的な関係性にあるのかを突き詰めて知ることこそが、私たちの日常とパレスチナを架橋するために必要なのではないのでしょうか。

今回の映画祭には、東エルサレムYMCAの関連団体でパレスチナの平和の実現に取り組むJAI (Joint Advocacy Initiative)のマネージャー、ニーダル・アブズルフさんがメッセージを寄せてくださいました。そこには、パレスチナのための「変化の担い手」になってほしいとの私たちへの力強い呼びかけがありました。私はその言葉から、いかに自分の生きる社会に批判的であるか、責任のために自分自身を変えられるのかという試しをも受け取って歩みたいと思います。



オリーブ平和映画祭の開催に協力いただいた皆さん

連載 東京の中の韓国を巡る【第11回～日本民藝館～】 才門勇介(「かけはし」編集委員)



本館外観

今回は目黒区にある日本民藝館を訪ねました。民芸品(民衆の生活工芸品)を収集、展示するという珍しい場所です。日本民藝館は「民藝」という新しい美の概念の普及と「美の生活化」を目指す民藝運動の本拠として、日本を代表する思想家・柳宗悦(やなぎ むねよし)らが中心となり、1936年に開設されました。そもそも「民芸」品などという言葉で普通に使用されている民藝という言葉はそれまでは美術的な視点で語られる事なかった日用品のなかの美しさに着目し「民衆」の「民」、「工芸(工芸)」の「藝」ととって、柳宗悦らが名付けたものだそうです。少し話は逸れますが、柳宗悦と行ってもピンとこないかもしれませんが、「バタフライ・スツール」で有名な「柳宗理」の父と言った方がわかりやすいかもしれません。「民藝」の父の子が戦後日本の工業デザインの最大の功労者とされているのは面白いつながりですね。

では、「東京の韓国を巡る」においてなぜ、この日本民藝館並びに柳宗悦がテーマになり得るのでしょうか。

実は柳宗悦の「民藝」運動においては朝鮮半島がキーワードとなるのです。そもそも、柳が民芸品の美しさに気づききっかけとなったのは、土産に買った朝鮮陶磁器でした。その無名の職人の手による日用品、特に朝鮮工芸に魅了された柳はその後たびたび朝鮮半島へわたります。そして当時植民地であったにもかかわらず朝鮮の美術をほめたたえ、ついには1921年日本で最初の「朝鮮民族美術展覧会」を開くに至り、さらには1924年にはソウルに「朝鮮民族美術館」を開設します。これは日用品の美を紹介する小規模な美術館であり、これが後に日本での民藝館設立にむけての運動の元となるのです。



西館(旧柳宗悦邸)

そういう目で見ると確かに柳自身が設計の細部まで手がけた民芸館の建物自体のデザイン(登録有形文化財)もどこか日本と朝鮮の古来の様式が折衷されており、日用品のような優しさを持ち合わせているように感じられますし、それは向かいにある西館(旧柳宗悦邸)ではより鮮明です。



現在開催中の展示から「愛される民藝のかたち」館長 深澤直人がえらぶ 6月21日(日)まで

内部は撮影禁止でしたので残念ながら実際に行っていただくしかありませんが、なんと懐かしいような優しい雰囲気があります。また柳の審美眼により選ばれたという古今東西の諸工芸品約17,000点が所狭しと並んだ中でも、いわゆる美術品と呼ばれる物の展示された美術館と違い、仰々しさはなく「かわいらしさ」とでも言うべき親近感があります。まさにこれが民芸品ならではの美なのかもしれません。

朝鮮工芸品に魅了された者の息子がそのスピリットを受け継ぎ日本を代表する工業デザインを生み出す。是非、その民藝体験を通じて民族の垣根を越えた人々の生活の中にある美を感じていただきたいと思います。

日本民藝館 東京都目黒区駒場4-3-33

2015年3月～5月のプログラム

東京韓国YMCA 関西韓国YMCA

東京・関西 2015年度定期会員総会開催



【東京韓国YMCA】 2015年度定期会員総会が、5月23日(土)午後2時より、YMCA3階教室で開催されました。1部の敬虔会では、申鉉錫牧師が「決断」と題した説教を語られ、新年度を迎えた会員、スタッフを大いに励まし、力づけてくださいました。

2部の会務処理は、議長である鄭順葉代表理事の進行により、事業報告、事業計画、理事・監事選出等が順調に処理され、新たな事業計画の下、会員一丸となって新年度の活動を推進していくことが確認されました。



【関西韓国YMCA】 2015年度定期会員総会が、5月30日(土)午後6時30分より、YMCA1階ホールにて開催されました。

1部の敬虔会では、鄭然元牧師より「時代を導いてゆく人」と題する説教をいただき、参加者一同がYMCA運動の原点を再確認する機会となりました。

2部の会務処理は、議長である鄭寿天代表理事の進行により、事業報告、事業計画、理事・監事選出等が順調に処理され、新年度の方向性を確認してこの一年を歩んで行くことになりました。

関西韓国YMCAの活動

2015 YMCAフェスティバルー韓国民俗芸術科公演開催



関西韓国YMCA 創立40周年記念事業の最後を飾るYMCAフェスティバルー韓国民俗芸術科公演が4月26日(日)夕刻よりクレオ大阪中央(大阪市天王寺区)において約900名のご来場者を得て行われました。

舞台は繊細で妖艶な「立舞 イプチュム」で幕を開け、子どもクラスの可愛い舞姫たちが大人メンバーと共に華やかに「扇舞 プチュチュム」を舞い、チャンゴ教室メンバー12名による「チャンゴノリ」は多様な音とリズムを放ち、「僧舞 スナム」、「サムルノリ」と進みました。

第二部は11名が三面に置かれた太鼓を打ち鳴らす迫力ある「三鼓舞 サムゴム」から始まり、特別出演の朴根鐘さんによる「牙箏散調 アジェンサンジョ」演奏に合わせて金君姫先生が「桐の木」の「生」を作品とした「梧桐一葉 オドンイルヨブ」を舞いました。次に学と徳を備えた孤高の若い学者の内面世界を表現した舞踊「土風情感 サブンチョンガム」、そして最後は総勢33名による「大風物 テプンムル」。客席後方からナルナリの音が鳴り響き、メンバーが楽器を打ち鳴らしながら登場すると会場全体が祭りの空間となり、ケンガリ・チャンゴ・ソゴなどが次々とサンモを回しながら踊り、キンサンモのパフォーマンスもあり、演奏者も観客も一体となって楽しく元気あふれる時を共にしました。

この韓国民俗芸術科公演は1979年の第1回から数えて今回は13回目となります。特に今回はオリニクラスから育った若者の成長がめざましく、また、継続メンバーの上達・熟練、新しい演目へのチャレンジ等、次回も楽しみです。当日ご来場くださった方、ボランティアの方、広告等の賛助をいただいた方、スタッフの方、ご家族のみなさんを始め様々な方のご支援ご協力があったこの佳き日を持ってたこと、そして1983年度より専任講師として指導を続けてくださっている金君姫先生に心より感謝申し上げます。

東京韓国YMCAの活動

韓国伝統楽器・舞踊教室発表会



3月7日(土)年度末恒例の韓国伝統楽器・舞踊教室発表会が地下スペースワイホールで行われました。発表者は、習い始めて1年目で初めて発表の舞台に立った方から、10年以上の経験を誇るベテランの方までいらっしゃいましたが、華やかな扇の舞、迫力あるサムクチュム、魅惑的なカヤグム散調と民謡併唱、そして客席も踊らせてしまうソパン・ソルチャンゴやサムルノリ・パンクッの演奏といった、実に多種多様な内容を披露してくださいました。

4月からは、また新年度の教室が始まりました。来年、さらにレベルアップした皆さんの発表が今から楽しみです。

ネパール地震 緊急支援募金のお願い



被災現場を訪れるネパールYMCAのAchaya 総主事

在日本韓国YMCAでは、ネパール地震緊急支援募金を行っています。

募金は、1.ネパールYMCAによる物資の配布等の緊急支援および復興支援、2.日本国内のYMCA日本語学校・専門学校に通う、震災の影響を受けたネパール人留学生の支援のために用いられます。

私たちのYMCAの日本語学校にも、ネパール人学生が9名在籍しています。ぜひ、ネパールの仲間たちのために、皆さんのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

募金はYMCA1階フロント、3階事務所に持ちいただくか、郵便振替をご利用ください。

郵便振替 00190-4-539049 在日本韓国YMCA ※通信欄に「ネパール地震募金」とご記入願います。